

# 1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

作成日 平成19年8月22日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0770700748		
法人名	株式会社 エコ		
事業所名	グループホーム楓の郷		
所在地	〒962-0116 福島県須賀川市西田町9-3 (電話) 0248-72-4813		
評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会		
所在地	〒960-8043 福島県福島市中町4-20 みんなビル302号室		
訪問調査日	平成19年7月24日	評価確定日	平成19年9月3日

【情報提供票より】 (平成19年5月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 17年 12月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤 17人, 非常勤 0人, 常勤換算 13人	

### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	2階建ての	1~2階部分	

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	9,000円(4月~10月) 12,000円(11月~3月)	
敷金	有( ) 円 (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(19,950円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,200 円			

### (4) 利用者の概要

利用者人数	17名	男性	7名	女性	10名
要介護1	4名	要介護2	5名		
要介護3	6名	要介護4	1名		
要介護5	0名	要支援2	1名		
年齢	平均 80歳	最低	60歳	最高	94歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	佐藤心療内科、円谷歯科医院、すずぎ歯科医院
---------	-----------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

須賀川インター近くの新興住宅街にあり、駐車スペースも十分確保されていた。近隣には市営の公民館・公園等の公共施設が点在し、催し物への参加や見学などがしやすい環境となっており、利用者が楽しみにしている。利用者や職員は助け合いながら、家族のような関係性を保てるような支援をしている。理念達成のために、毎月標語を貼り出したり、職員が自分の目標を設定するなどして、サービスの向上に努めている。市内にある、「認知症支援地域ネットワーク」活動に参加し、地域密着型サービス事業所として積極的に地域貢献を行っている。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価については、全職員で取り組んでいる。自分たちの支援方法を振り返り、良いところや改善すべきところなどの把握ができた。自己評価により地域密着型サービス事業所としての役割が再認識され、これを機会に行事などを通して計画的に地域と関わるよう取り組み始めた。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5) 運営推進会議では、たくさんの質問や意見が活発に出されており、会議録を行政等にも報告している。委員から地域の行事を教えてもらい、利用者と一緒に参加している。地域の方々と共に、地域の一員として活動している。医療や看取りなどの質問も多く出され、今後の課題として取り組む姿勢が見られた。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 運営推進会議に家族代表にも出席を依頼し、意見や要望を出してもらい、運営に反映できるよう努めている。会議の連絡などを行いながら、話しやすい雰囲気作りにも努めていた。
重点項目③	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域で行われる行事などにお誘いがあり、積極的に参加している。事業所のイベントは、チラシを作り、一件一件をまわり配布しながら、地元の人々と顔馴染みの関係を作るための工夫がされていた。また、地域のボランティアの協力を得ながら、利用者は音楽等を楽しんでいる。

## 2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「家庭的なぬくもりある雰囲気大切にしながら 地域の人々と交流しながら 生きる喜びを感じて暮らせるケア 礼儀を忘れず敬愛の心を持ったケアを提供する」と地域密着型サービスとしての理念が作られている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝の申し送りの際に唱和して、理念を確認してから業務を始めるようにしている。また、理念達成のために、職員から案を出してもらい、毎月標語を掲げて独自の展開をしている。地域の中でその人らしく暮らし続けることができるように支援し、地域との交流に努めている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域で行われる行事などにお誘いがあり、積極的に参加している。運動会の宝探しでは景品をいただいたり、公民館活動等にも定期的に参加している。事業所の広報のためにチラシ等を作り、一件一件まわり配布しながら、地元の人々と顔馴染みの関係を作っている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者や職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、全職員で話し合い行っている。その結果、自分達で努力が必要なものや、頑張っているものなども見えてきた。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議が定期的に行われ、内容は職員会議などで報告すると共に市へも報告に行き、意見を求めたりして、サービス向上のために活かしている。		
6	9				
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月定期的に近況報告し、お小遣い帳や薬の情報なども報告している。必要に応じて電話などで連絡し、利用者の状況に応じた報告がされている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に家族代表にも出席を依頼し、意見や要望を出してもらい、運営に反映できるよう努めている。普段から家族が意見・不満・苦情等を言いやすい雰囲気作りに努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の移動は、最小限度に抑えられ、離職の場合は、ベテランの馴染みになった職員がフォローにあたり、利用者へのダメージを防ぐ工夫がされている。また、職員と話し合いを多く持ち、離職を最低限度に抑えられるような努力をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修・現任研修は、法人が独自に行う内部研修として、定期的に行われるよう計画されている。また、市内同業者間の交換研修に参加したり、受け入れたりしている。その他の研修なども積極的に参加できるよう業務調整し、研修を受講した後は、会議などにおいて発表し、知識・技術の共有化が計られている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	認知症地域ネットワークに参加し、勉強会や相互の交流に努めている。勉強会などで地域の課題や現状などについて話し合い、地域全体としてのサービス向上につなげている。		
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している(小規模多機能居宅介護)	/		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者に、昔の風習や季節の行事・農事などを教えてもらいながら、一緒に行っている。体が自由に動かない方でも、指導はできるため、肥やしのかけ方などを教えてもらい、共に支え合う関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃から、買い物や散歩などの希望を取り入れて、利用者本位の生活ができるように支援されているが、一人ひとりの思いや暮らし方の希望などが具体的な形として表れていない。	○	今後は、どう暮らしたいと思っているのか等の希望を具体的に聞いて、事業所はそれに対してどのような支援や関わり方をしたのか、結果についても実現したのかどうか等の経過が形として表れるよう努められれば良いと思われる。
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケースカンファレンスやモニタリングが定期的に行われ、職員の意見や気づいたことを活発に出せるような会議が行われている。また、家族や利用者本人の意見などを取り入れたり、医療機関に相談したり、他のサービス事業者の意見なども参考にしながら介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	本人の状況に応じて見直しをしたり、期間を決めて、定期的に見直したりと、現状に応じた計画の見直しがされている。受診の際の医師の意見や助言も受けて、家族などにも相談し、相互協力を基に計画が作成されている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている(小規模多機能居宅介護)	/		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	一人ひとりが従来からのかかりつけの医師の受診ができるように支援されている。通院の支援を行い、その都度医師や看護師と情報交換を行い、良い関係を作る事ができるように努められている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	事業所として『入居者の重度化と終末期の対応指針』を作成し、事前確認書により家族や本人の意思を確認している。早い段階から話し合いをすることは大切なことである。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	プライバシーの確保については、職員が十分理解しており、居室訪問時の挨拶や声かけ、対応についての話し合いがされている。申し送りの際には名前を呼ばずに居室番号で行うなど、工夫がされている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調や気分により異なる思いを、問いかけ等しながら、本人のペースで過ごせるようにしている。食事時間の調整や買い物など、やりたいことの把握に努め支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者一人ひとりの嗜好を把握し、義歯や咀嚼に合わせて食べやすく工夫し、季節の食材などを用いながら、一緒に準備や片づけなどを行っている。本人の食べたいものが食べられる日を設定していて、決まるまでの経過も楽しんでいた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	体調を確認しながら、好きな時間に好きな人と入ることができるように支援されていた。午前・午後を問わずに、好きな時間に入浴ができて、本人の能力に合わせた支援をしている。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援(認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている(認知症対応型共同生活介護)	利用者一人ひとりの生活歴を把握し、経験や趣味の能力が発揮できるような支援に努め、動けない方でも、種まき時期や肥料のまきかた等の指導を受けるような形で支援し、智恵や技術を学び、感謝しながら共に楽しく過ごせるように努めている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している(認知症対応型共同生活介護)	日常的に、散歩ができるようになっており、戸外へ出かけられるように支援している。近くの公園へは、飲み物やお菓子などを持っていき、プチピクニックをしている。また、ドライブなども行っている。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけることにより起こる、身体的・精神的弊害を理解しており、鍵はかけられていない。外出しそうなときには、さりげない声かけや一緒に散歩するなどして、支援されている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的な設備点検と、避難訓練が実施されている。避難限界時間などの把握もされ、運営推進会議では近隣の方々への協力をお願いするなどしている。しかし、非常用食料の備蓄はされていない。	○	災害はいつ起こるか分からないので、今後は非常用食料や飲料水などの備蓄を検討してほしい。
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事はカロリーなどの計算をし、摂取量や水分量などはチェック表などで確認できるように支援している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間には、利用者の作品や季節の花などが配置され、居心地良く過ごすために、職員と利用者で話し合いをしながら、季節の変化を感じることができるよう支援されている。和紙や布で遮光し工夫しているため、不快な音や光などは無い。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、利用者一人ひとりの個性が表れ、使い慣れた物品が置かれている。人により冷蔵庫やテレビなども持ち込まれ、自分らしい居室作りができるように支援されている。		

※  は、重点項目。



### 3 評価結果に対する事業所の意見

事業所名 グループホーム楓の郷

記入担当者名 小沢 美代子

#### 評価結果に対する事業所の意見

特になし

#### 評価結果に対する「事業所の意見」の記入について

意見については、項目No.を記入してから内容を記入してください。